



新座中だより

〒352-0011 埼玉県新座市野火止2-4-1
Tel 048-478-3668
HP <https://j-niiza-c-niiza.edumap.jp>
新座市立新座中学校

学校教育目標
強く 明るく 考える

「5月号」

令和8年5月1日発行

「叩けよ。さらば開かれん。」

～新約聖書 マタイによる福音書 7章7節～

校長 伊藤大輔

学校は学ぶ場です。学ぶ機会を与える場です。学ぶ機会を学びに転換する力が学力です。転換するか、しないかはあなた次第です。要は「する」か「しない」かです。「する」人は「私を大切にする」人です。自分を尊敬し、自分を育てる人です。では、どうすれば自分を育てるに至るのでしょうか。

自分の中には自分をコントロールする「もう一人の自分」がいます。この自分は感情や本能に振り回されず、冷静に判断し、行動を制御します。「理性」や「良心」とも言われます。いつも中立的で、厳しい目で自分をコントロールします。

自分の中で生じる悪い心をいさめ、危ない行動を起こそうとする心にブレーキをかけます。「手を抜いているね」「本心じゃないことをやってるね」と語りかけてきます。その一方で、自分のがんばりや、報われなかった努力もよく見ています。「なかなかよくやっているよ」「結果には結びつかないけれど、最善を尽くしているよ」と励ましたり、背中を押してくれたりもします。これこそが自信の正体です。冷静で厳しいもう一人の自分が育てるものが自信です。ちなみに根拠なく現実以上に自分を高く評価することを「過信」といい、自分の能力以上におごり高ぶることを「慢心(まんしん)」といいます。

さて、学びの機会を自覚したのち、学びを起動するためのヒントが本校の校歌に隠れていました。歌詞の中に「明日への扉たたくもの」という一節があります。私は、この「扉をたたく」という表現が気になって仕方ありませんでした。先日、ある本を読み返していたところ、偶然にも次の文章に出くわしました。そして「扉をたたくもの」とは自らを律し、自らを

敬い、自らを高める姿であると、理解しました。

「人間が本当に愛するものを見つけるのは本当に大変なことで、それがすべて、要するに人生の中心だと思うね。一生かかっても、ついに見つからない人も多いと思うんだよ。だけど、ドアが閉まっていたとしても、いつかは絶対に自分の好きなものを見つけられると、そういうふうに導かれているんだと信じていいだね。だいたい、どこもかしこも閉まっていると、絶望的になっちゃうんだよ。だけど、あっちこっち叩いているうちに、どこかのドアがポンと開くと思うんだね。その開いたドアが自分の一番求めている、愛するものへの道だと、とりあえず信じるんだよ。そこへ入る、またドアが全部閉まっている。必死になって叩くと、またひとつだけドアが開く。そういうところを一つずつ通過しているうちに、いつか、ものすごい光が自分の中に出てくるはずなんだよ。」

リチャード・バック著、村上龍訳『イリュージョン』より

新年度の開始から三週間が経ちました。学びは生まれていますか。誰もが学びに浸れるように力を合わせていますか。学ぶ環境は整っていますか。学ぶ場は散らかっていませんか。余計なことをして場を乱していませんか。相手への礼節(れいせつ)を保っていますか。誰かを出し抜くためではなく、「わたし」を大切に育てるために学んでいますか。

「どうかな？」と少しでも思った人は、中学校で学ぶことの意味をわかろうとしている人です。自分を育てる準備を整えている人です。誰かに扉を開けてもらうのを待つのではなく、自分、そして新座中学校を本気で成長させる力がある人です。あなた起点による、前向きな実践を期待しています。